

## 質問2 学術部の経常費用（事業費）について

（該当箇所:p.94 第4号議案 2022年度決算報告書承認及び監査報告書の件 正味財産増減計算書内訳表 学術部）

学術部の経常費用が昨年度と比較し4千万弱増加しております。これほどまで経費が増加した理由について、特に今年度は学会運営費、印刷製本費、そして新たに計上されました補助事業費が大幅に増額しており、これらの影響が大きいように推察致しました。これらの増額を要した理由につきましてご教授いただけましたら幸いです。また、補助事業費について、どのようなものが含まれているのか。1250万ほどの中身についても、教えていただきたくご質問させていただきます。よろしくお願い致します。

## 回答

学術部の事業費支出が大きく増額した科目についてその理由をご説明します。なお、増額の妥当性については、あらかじめ学術部および財務にて精査したことを申し添えます。

○給与手当は、学術誌担当事務局員が2022年2月から入職したため、2021年度は2ヵ月分しかかかっていないのに対し、2022年度は12ヵ月分かかっています。

○学会運営費は、2021年度はWeb（ライブ+オンデマンド）開催であったのに対し、2022年度は現地+Web（現地ライブ+オンデマンド）開催となったため、会場費や会場ライブ設備等により大きく増額となりました。

○委託費は、

1) 学会の現地参加登録システムと座長登録システムの関連経費が該当し、これらは学会運営費とは別会計で処理されていますが、2021年度は現地開催ではなかったため発生しませんでした。

2) Asian Journal of OTについては、ホームページ作成代（新規事業）、マニュアル作成代（昨年度は印刷製本費に入っていた）、掲載論文数の増加に伴うシステム使用料と印刷代の増加が主な増額の理由となっています。

3) 総じて、印刷にかかる紙代が値上がりしたこと、各種システム利用料の単価が上がったことも挙げられます。

○印刷製本費は、上記のマニュアル作成代の処理科目が移行したことと、学術誌『作業療法』において業者が行っていた編集・制作業務を2021年度途中から協会事務局で行うことにしたことにより、昨年度より支出が減っています。

○補助事業費は、厚生労働省の老人保健健康増進等事業に関する支出で、2022年度は国庫補助金を受けて「訪問による効果的な認知症リハビリテーションの実施プロトコルの開発研究事業」と「介護保険制度における福祉用具の範囲及び種目拡充等に関する提案・評価検討のあり方についての調査研究事業」という2つの事業を実施しました。これについては、収入項目の「受取国庫補助金」と支出項目の「補助事業費」がほぼ同額であることをご確認ください。2021年度はこの国庫補助金事業がありませんでしたので、2022年度はこの支出がまるまる加わっています。なお、この国庫補助金事業は、実際には学術部の事業として実施したわけではありませんが、学術関連事業ということで学術部の収支計算書に組み入れられています。